2021/10/14　久喜市立久喜小学校研究発表会

個の学びを支える学校
－カリキュラム・マネジメントがめざすもの－

文教大学教育学部
浅野信彦
nasano@bunkyo.ac.jp

「カリキュラム」の定義

- 語源はラテン語の「クレレ」（currere）。
- 走路⇒人生の来歴⇒履歴書
- 欧米では、**カリキュラムは「教育計画」だけでなく、それに基づく教師の働きかけと子どもの活動の全てを包括する概念**である。
- 一般に「**学習経験の総体**」と定義される（OECD-CERIなど）。
- 学校で提供される教育内容を**子ども自身が主体的に意味づけ、自らの経験を再構成していく**側面を視野に入れている。
- **子ども一人ひとりの「学び」のプロセスや、それを通して「結果的に何が身に付いたか、何ができるようになったか」を問う視点が含まれる。**

小学校におけるアクション・リサーチの個人的な経験から

- 2004年に文教大学に着任した当初、小学校教育に関する知見の不十分さを痛感。自らの「授業を見る目」と「子どもを捉える視点」を鍛えるために、小学校の授業研究に参加するようになった。
- いくつかの学校を継続的に訪問し「総合」の授業観察を重ねた。
- 特に高学年で、探究課題を自分事と捉えて深く探究しようとする姿、困難な問題に直面したときに本音で話し合う真剣な姿に圧倒されることがしばしばあった。
- 低学年から下記の経験の積み重ねによって**「学ぶこと」に対するポジティブな「構え」**のようなものが育っているのではないか。

【体験と気づき】体験を通して様々なことに気づく
【対話と自己決定】今後どうするのか話し合って決める
【計画と実践】自分たちのアイデアを実践する
【振り返り】実践したことを振り返る
【自己表現による学びのたしかめ】自分の思いを文章として書く

学びの「構え」（learning disposition/dispositional milieu）とは

Margaret Carr, Wendy Lee(2012),大宮勇雄他監訳『学び手はいかにアイデンティティを構築していくか』ひとなる書房,2020.

- 家庭･保育施設･学校などの**文化的環境**に参加することによって子どもたちが身に付ける、その**コミュニティ特有の「ものの見方や態度」**のこと。
- 子どもがより複雑な知識やスキルを身に付けていく際のフィルター（感情に根ざすフィルター）としての働きをするもの。
- 子どもを新たな考えやアイデアの探究に向かわせたり、逆にそれに制限をかけたりするもの。

具体的には、

- **その子どもが生きる世界に関する知識として何が適切か？**
- **間違いをおかすリスクにあえて挑戦することについてどう考えるか？**
- **学習者は自分から何かを始めていい存在か、それとも誰かに従うべき存在か？**
- **新たな考えや問題に熱中してすすんで探究するという行為にはどのような価値があるか？**
- **自分自身（自分たち）がどうあるべきかをめぐって議論する機会が与えられるべきか？**

といったことにかかわる見方や態度。※大宮他訳書46頁から引用（一部表現を改めた）。

学びの「構え」という視点から小学校教育の現状をみると･･･

- 各教科や総合的な学習の時間の授業の中で、子どもたちは教師に与えられた課題を一定の手順に従って解決しているだけで、課題を自分ごととして捉え、試行錯誤しながら本質に迫っていく姿があまり見られない。（**探究的な学びの必要性**）
- 授業の中で子どもが自らの考えを表現したり、伝え合ったりする場面は増えている。しかし、教師は子どもの多様な思考を事前に計画した「まとめ」に収束させようとするため、子どもの表現の背後にある経験や思いを引き出したり、一人ひとりの言葉をつなげて深く本質に迫っていく授業にはなっていない。（**対話的な学びの必要性**）
- 子どもたちが課題に向き合ったり活動を積み重ねたりする中で、「もっとこうしたい」という思いや願いをもったとき、それをもとに単元計画を修正したり、その子どもの思いを次の単元構想につなげようという発想をもたない教師がいる。（**子どもの自己決定から主体的な学びへ**）

カリキュラム全体で子ども一人ひとりの学びを支え育んでいくことが必要

「個の学び」ということ

- 「個別」でも「個性」でもない、「**個**」という地平に立つことで見えてくる「**学び**」の世界がある。
- 一人ひとりの学びの姿から、**その子なりの選択やこだわり、感動や葛藤、思いや願いなどの内的変化**を捉えようとする教師の姿勢によって、その世界は開かれる。
- そこには混乱や停滞の時期があり、予測を超えた飛躍の瞬間もある。

津守真『保育者の地平－私的体験から普遍に向けて－』ミネルヴァ書房,1997年

子どもが自分の意志で自由に選択し、自分から発動して何かをなしえたとき、その子どもは堂々として自信があり、幼くとも一人前の成熟した人間の風格がある。**それぞれの時期に小さな世界に、それなりの成熟があり、将来に開いていく小さな核がある。**（中略）人間の内部のものでありながら、社会をつくるのに大切な価値である。**内部にそれを育てられている人は、社会を展開させうる人である。**（121頁）

一つひとつの具体的場面で、子どもの行動を、**慣習的な大人の目で見ることを意識的に止めて、子ども自身の表現として見る**ことに転換する作業である。（中略）このことが意識的課題となるとき、保育の場は**子どもが主体として生活する場**となるであろう。（220頁）

「学びを社会に開く」ということ
－カリキュラム･マネジメントがめざすもの－

広石英記編著『学びを創る・学びを支える－新しい教育の理論と方法－』一藝社,2020年

第11章　カリキュラム・マネジメントに向けて（浅野信彦）
　第2節　資質･能力の育成をめざすカリキュラム･マネジメント

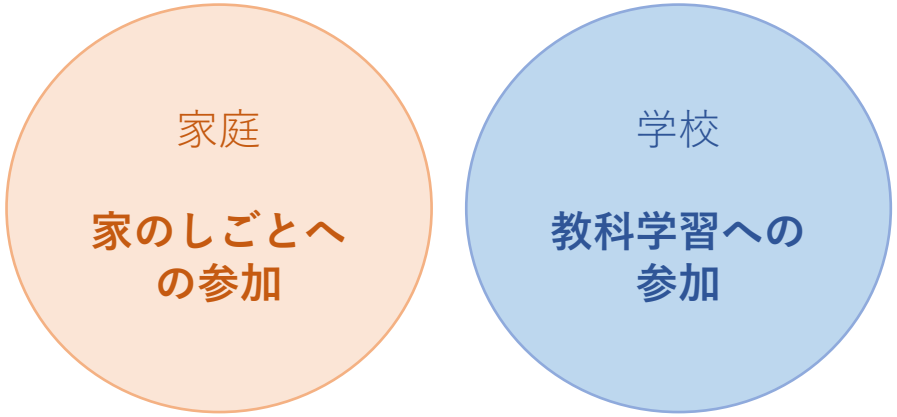
　我が国では1990年代後半から「開かれた学校づくり」が推進されてきた。これは、学校と家庭や地域との連携や、学校運営への地域住民の参加を通して「学校を開く」という考え方であった。これに対して**「社会に開かれた教育課程」は、教育課程の目標を社会と共有することや、子どもたちに育むべき資質や能力を「これからの社会」を見通して明確化することを求めており、「学びを社会に開く」ことをめざしている。**

（147頁）

2020年7月

2年生 生活科と算数の合科「1年生のえがおのために」

1年生と校外学習（動物園）に行く計画を立てるため、時計の「時」と「分」の関係を考えさせる授業。

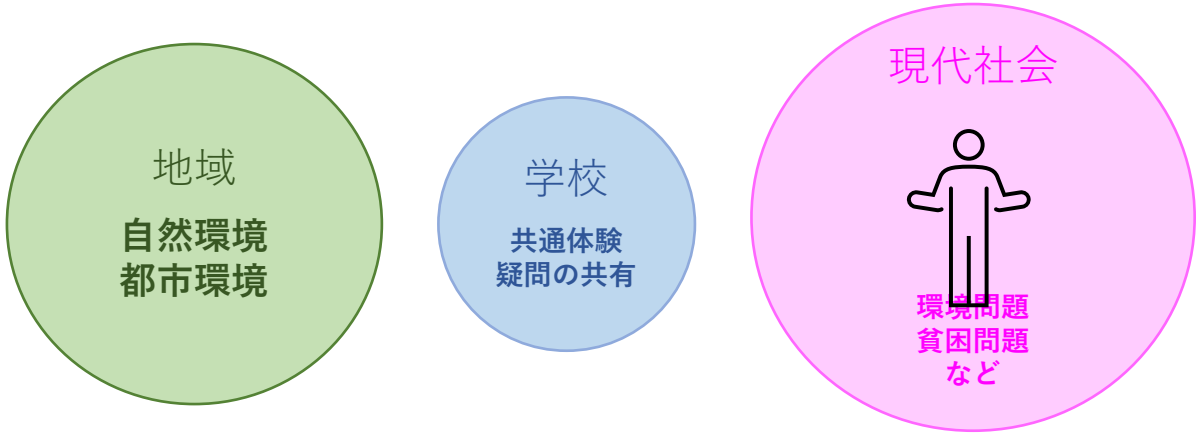


T：10分でできることはどんなことですか？
C1：お弁当を食べる！
C2：忘れ物を先生にもっていく！
C3：家でお母さんのにんじんを切るお手伝い！

2020年11月

4年生 総合的な学習の時間「守ろう大切な水･命！」

学校のビオトープと身近な川にいる生き物を捕まえてリストにまとめた子どもたち。疑問に思ったことを話し合って「水」に関する問いを設定させることを意図した授業。



T：今日は、「なぜだろう」「不思議だな」と思ったことを、どんどん話し合ってほしいと思います。それでは始め！
C1：先生、課題は何？
T：先生はね、課題は出しません。自分たちで考えてみて。不思議だなってこと見つけたでしょ。自分たちで考えてみて。

T：（グループの話し合いを聞きながら）今、魚のこと出てるけど、環境についてはどうなの？
C2：ビオトープには藻が多いけど、川には植物が少ない。
C3：藻がなくなると生き物が隠れる場所や卵を産む場所がなくなるよね。
C4：植物が少ないと隠れる場所が少ないから、あまり環境がよくない。

2021年6月

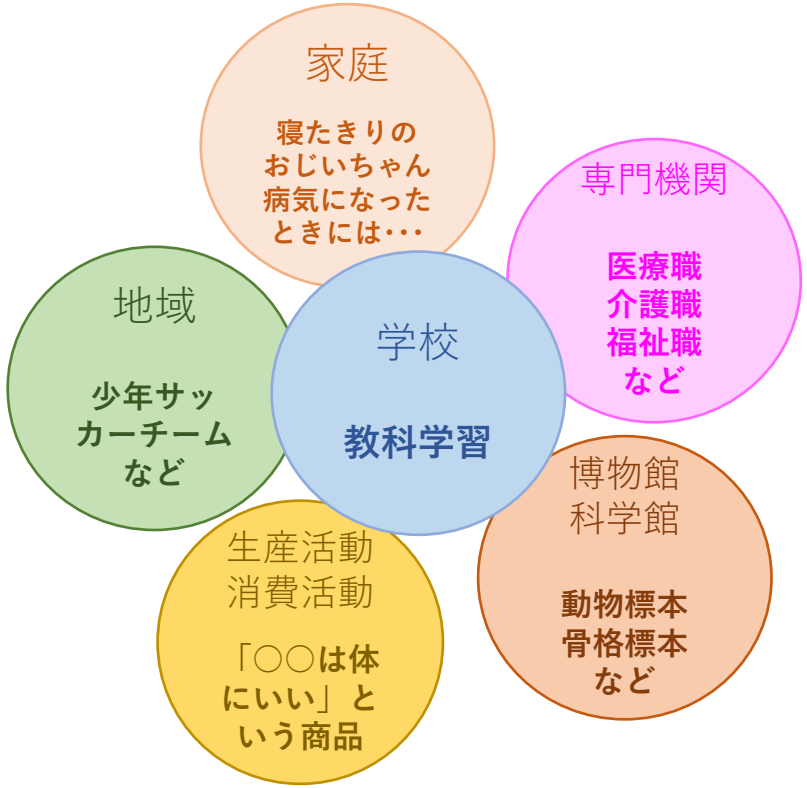
6年生 理科「人や動物の体のつくりと働き」

人や他の動物の体のつくりと働きを理解し、観察や実験などに関する技能を身に付けてきた子どもたち。これらの知識･技能を活用して「笑える何かを生み出す」活動を行う。一人ひとりの自己決定を大切にし、創造的思考を育むことを意図した授業。

T：（板書）獲得した人体の知識を使って自分で企画をデザインし、発表用に生み出そう。
C1：臓器一つひとつをキャラクターにする！
C2：福笑いをつくる！人の臓器のイラストを使って臓器の場所を覚えやすくする！
C3：（クイズを作っている）でんぷんを○○に変える。○○とは何でしょう？

子どもたちが作り始めたもの
・クイズ
・福笑い
・アニメをもとにした細胞の物語　など

- 理科で習得した「人体」に関する知識を、子ども一人ひとりが**「自分にとってどんな意味があるのだろう？」と切実に問い直す**ことによって、自分が生み出したい「何か」が見えてくるだろう。
- そこにたどり着くまでに、**とまどったり、とほうにくれたり、迷ったり、悩んだりする子どもの姿**が見られるだろう。
- そんな**一人ひとりの自己決定を支える**ために、教師にできることは何だろう？



今回の久喜小公開授業について

- 1年 生活科「ダンボールランドプロジェクト」

- 3年 国語科「たから島のぼうけん」

- 5年 総合的な学習の時間「3UP 久喜小」

参考･引用文献

- Margaret Carr, Wendy Lee(2012),大宮勇雄･塩崎美穂･鈴木佐喜子･松井剛太監訳,磯部裕子･川田学･菊地知子･矢萩恭子訳『学び手はいかにアイデンティティを構築していくか』ひとなる書房,2020.
- 津守真『保育者の地平－私的体験から普遍に向けて－』ミネルヴァ書房,1997年.
- 浅野信彦「カリキュラム･マネジメントに向けて」広石英記編著『学びを創る・学びを支える－新しい教育の理論と方法－』一藝社,2020年,139-151.
- 飯岡裕介･浅野信彦「学校教育目標の実現に向けたカリキュラム･マネジメントの実践研究－「イノベーション力の育成」をめざして－」『日本カリキュラム学会第32回大会発表要旨集録』日本カリキュラム学会第32回大会実行委員会（琉球大学）,2021年.
- 白井俊『OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来－エージェンシー､資質･能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房,2020年.